

熊本大学広報誌

熊大通信

vol. 64
2017 SPRING



特集Ⅱ

リポート 熊大と熊本地震 vol.3

特集Ⅰ

熊本大学の教養教育改革
地域の情報を普遍性ある「知」へ高める
肥後熊本学

巻頭座談会 学長×学生
今、熊大生であるということ。

Takumy, m.

熊大通信

vol. 64
2017 SPRING

CONTENTS

- 03 巻頭座談会 学長×学生 今、熊大生であるということ。
- 07 特別企画 人生の可能性を広げるアントレプレナーシップ
大学発ベンチャーを支援
- 09 特集Ⅰ 熊本大学の教養教育改革
地域の情報を普遍性ある「知」へ高める
肥後熊本学
- 17 研究室探訪 光をもっと有効に。化学が支える
「光マネジメント」で世界を変える
工学部 伊原 博隆 教授
- 19 特集Ⅱ リポート 熊大と熊本地震 Vol.3
自然災害に負けない地域づくりを支援
- 23 国際交流 熊大で出会う、グローバルな体験！
熊本大学2017 スプリングプログラム
- 25 卒業生ジャーナル
- 27 KUMADAI TOPICS
- 30 熊本大学基金よりお知らせ

旅する熊大／

熊本大学 ラグビー部

2015年に創部50周年を迎えた熊本大学ラグビー部。現在では女子部員1名、マネージャー9名を含む総勢37名で活動中。練習場所である武夫原グラウンドには、和気あいあいとしながらも、真剣に練習に取り組む部員たちの掛け声が響き渡る。2017年は、九州学生リーグⅡ部での全試合勝利と2016年まで所属したⅠ部への復帰を目標に掲げ、一丸となって練習に励んでいる。

熊本大学広報誌 熊大通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】熊大通信編集委員会
大日方信春／委員長 法学部
大野 龍浩／文学部
松永 拓己／教育学部
岡本 洋一／大学院法曹養成研究科
光永 正治／大学院先端科学研究部
緒方 公一／大学院先端科学研究部
日浦 瑞枝／大学院生命科学研究部
首藤 剛／大学院生命科学研究部
田中 尚人／政策創造研究教育センター
後藤 正三／マーケティング推進部広報戦略室

【制作】株式会社 談

表紙／【原画】松永 拓己／教育学部 准教授
特集Ⅰでとりあげた「肥後熊本学」をイメージ。
激石、熊本城、水俣などのテーマに6つの領域をイメージした
肥後六花(肥後棒(ひごつばき)、肥後芍薬(ひごしゃくやく)、
肥後花菖蒲(ひごはなしょうぶ)、肥後朝顔(ひごあさがお)、
肥後菊(ひごぎく)、肥後山茶花(ひごさんか))をあしらった。

※本誌記載職名・学年等は取材時のものです。

学長 × 学生



今、熊大生であるということ。

熊本大学といえば旧制第五高等学校から受け継ぐ「剛毅木訥」の校風です。それは、飾らず真摯に、勉学やスポーツに励む学生たちを表した言葉です。新たに新入生を迎えるにあたり、勉学はもちろん、スポーツや学外活動にも活躍の場を広げる学生3人と学長に、大学生生活について語っていただきました。

好きと思えることに 取り組むことが一番

学長…僕は熊本大学の医学部出身なんです。外科医になるつもりでしたが、大学院で研究のおもしろさに目覚め、研究の道に進みました。

永尾…ご専門はなんだったんですか。

学長…ウイルス学です。大学院修了後に米国留学した時エイズが発見されました。そこでエイズプロジェクトに参加。山口大学や京都大学を経て熊本大学医学部の感染防御という講座の初代教授になったんです。永尾さんは薬学部で大学院にも進んだそうですが、何を研究していたんですか。

永尾…薬学部後半から研究室に所属して、博士課程でもドラッグデリバリーを研究しました。強力な作用があつて全身に副作用が及ぶような薬を病巣部位のみに運ぶ工夫などを扱う分野で、特にガス(気体)のデリバリーに挑戦しました。

学長…宮窪さんはどうですか。

宮窪…私は今年度から大学院です。3年生から化学を専攻していて、大学院でも機能性分子結晶をつくり特性を見る、という研究を続けます。磁性や電気特性、半導体としての性質、デバイスへの応用も

あり、毎日が楽しいです。

学長…いいことですね。熊本大学は特に研究に力を入れている大学。研究には、好きで楽しいと思えることが一番です。野口さんは法学部で何を学びましたか。

野口…一般的な教養から、法律を解釈する専門的な知識、課題を解決するために必要な「考える力」や「議論する力」など、幅広く多くのことを学んでいます。法学の勉強は、学んだことが身近な生活に役立てることができるので、すごく楽しいと感じています。

勉強以外にも積極的に それが、人間力を高める

学長…昨年は熊本地震が発生し大変な一年でしたが、地震後、学生たちがより積極的になったように感じます。

野口…私は地震後、出身中学の体育館で避難生活を経験しましたが、食糧や水、毛布など生活に必要な物資を配給いただいた地域の方に本当に感謝しています。生活が少し落ち着いた頃、災害ボランティアに参加して、もっと地域の役に立ちたいという思いが強くなりました。復興に向けて頑張っている熊本の今を、全国の皆さんに

発信したいという思いが強くなり、ミス・ユニバース熊本大会に出場しました。

学長…地震を通して得た学びをそれだけで終わらせず、学外の活動に広げるのは素晴らしいことです。宮窪さんはあちこちのマラソン大会に出ているそうですが、なぜマラソンを始めたんですか。

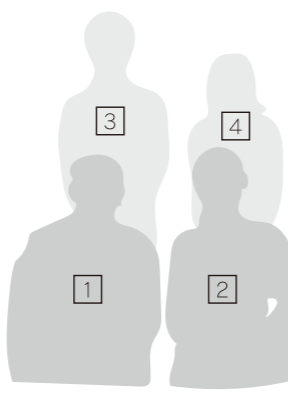
宮窪…中学時代に宮崎県で優勝した経験があり、小林高校に進みましたが、故障などもあり途中から勉強に集中することに切り替えました。大学2年生まで勉強一筋でしたが、2年前に友だちから熊本城マラソンに誘われたことがきっかけで再開しました。

野口…私は、小4から陸上を始めましたが、高校時代に走幅跳で、目標にしていた国体出場を叶えることができました。高2からは三段跳の魅力に引き込まれ、現在は三段跳を専門に競技を続けています。

学長…すごいですね。若い頃にスポーツをやると、そのエネルギーがほかの目標にも向く。それに、チームワークやコミュニケーション能力も磨かれるので、いいことだと思います。

野口…競技としてスポーツを続けることは、きついことも大変なこと多いですが、最後は自分との

- 1 原田 信志 学長
はらだ しんじ
- 2 法学部法学科2年 野口 真未さん
のぐち まみ
2017ミス・ユニバース・ジャパン熊本代表。高校時代には走幅跳で岐阜国体に出場し、現在は熊本陸上競技協会に所属(三段跳)。
- 3 理学部理学科4年 宮窪 祐允さん
みやくぼ ゆうすけ
平成28年福岡マラソン優勝(2時間27分48秒)、いぶすき菜の花マラソン優勝(2時間31分17秒)など。平成29年度より本学大学院自然科学研究科に進学。
- 4 大学院薬学教育部博士課程 永尾 紗理さん
ながお さおり
(医療薬学専攻)3年
薬学教育部博士課程3年で宇宙航空研究開発機構(JAXA)に就職が決まり、博士課程を3年で早期修了(※)。平成29年4月より筑波宇宙センター勤務。
※博士課程は4年制。



開いたと思います。おかげで、力と根性には自信ができました(笑)。

宮窪…マラソンは個人競技ですが、先日別大マラソンに出た時、地元じゃないのに私の名前を呼んで応援してくれる声や沿道から聞こえてきました。応援してくれる人たちがマラソンに出ようと思える。それも広い意味でチームワークだと思います。



学長…永尾さんは、どんなことに取り組みましたか。

永尾…薬学部の「エコファーマ」を担う薬学人育成プログラムには、積極的に参加しました。これは、薬学という領域を超えて新たな分野で活躍できる人材を育成する目的のプログラム。私は子どもの時から宇宙に興味があつて、大学では航空宇宙工学をやりたいのですが、2年挑戦してだめで薬学部に入りました。でも薬学部だから薬剤師という道だけではないと、このプログラムを通して知ることができました。また、JAXAの方の講演を聞く機会があり、すべてのものの振る舞いが地上とは違うのが宇宙で、宇宙での発見はすべてが世界初と聞いて、やっぱりおもしろいと。子どもの頃の



悔いのない大学生活のために 時間を有効に

思いがよみがえりました。
学長…JAXAに入社すると聞きへ進むのは珍しいことですね。
永尾…面接でもそう言われました(笑)。宇宙医学はありますが、宇宙薬学という分野はありません。病院のない宇宙では薬での治療が重要だし、宇宙空間を利用することで、これまでにない新しい薬が開発可能ではないか。面接のプレゼンでそう話しました。
学長…よく言われることですが、イノベーションや研究のブレークスルーは、分野の壁を乗り越えないと生まれないのです。薬学と宇宙医学の融合はまさにその方向に向かうのではないのでしょうか。

の言いわけにしないように心がけています。大学生活で一番大事なのは、やっぱり勉強だと思つての。
学長…大学院修了後も研究職や教職などいろんな道があるだろうけど、好きと思うことに突き進むこと。それにマラソンの体力があれば鬼に金棒ですね。野口さんは、勉強と学外活動をどう両立させているんですか。
野口…今は、7月に東京で開催されるミス・ユニバース日本大会に向けて、毎週ダンスやウォーキングレッスンにも通っているの忙しい毎日ですが、勉強は大学で最大限に学び、放課後は大学時代にしか出来ないことをするための時間に充てています。

学長…私は走ることも好きです。熊本大学の医学部に教授として戻ってからは江津湖も走ってたんだけど、そこは学生のデートコース。学生たちの間では「原田先生が走っているから、江津湖ではデートするな」となつたらしい(笑)。でも、走ることは楽しいよね。

学長…野口さんは2年生だから、これからですね。大学で学べないことを学外活動から吸収するのは大切だと思います。あとは、やりたいことを早く決めること。自分は何が好きなのか、しっかりと考えて進路を決めてください。

宮窪…好きという思いだけで走っています。マラソンを大学生活

野口…ありがとうございます。進路のことはまだハッキリとは決めていませんが、熊本地震を経験したことで、災害に強い地域づくりについて関心が高くなりました。将来は、熊本で地域に貢献できる法律の専門職に就きたいと思っています。

宮窪…私は教職や研究職など、目標に関してはまだ揺れています(笑)。ただ、今日好きなことをやるのがやっぱり一番だと伺って自信になりました。大学院では好きなことに取り組んで、悔いのない大学生活にしたいです。

ですね。薬学部にながら、好きだと思ふことをあきらめずJAXAに挑戦して宇宙への夢が叶つたわけですから。これからの目標は何ですか。

学長…悔いが無いように、という学生生活を実現したのが永尾さん

永尾…早期修了を認めていただき、熊本大学には本当に感謝していますし、薬学部で育てていただいた、その恩返しがしたいです。それには、新しい分野に挑戦して活躍す

ること。宇宙薬学という新しい分野の道を開くことができたなら、先輩たちにも新しい選択肢を与えてあげられると思っています。

何かに心を動かされたら、 それを原動力にして

学長…最後に、新入生へのメッセージとして、大学時代に学外でも活動するのはいいことです。自分がやりたいことを見つけるには、何かに感動することが大切。感動するために必要なのは「本物」に触れることです。絵画でも音楽でも、本でもいい。感動すればそこにテーマはあり、感動を原動力にそのテーマを突き詰めてほしいと思います。

宮窪…分野に縛られず、いろいろなことができるのが大学です。アルバイトでもいろいろな考えを持つ人と出会いました。4年間心がけてきた、迷つたらやってみる、いろいろなことに挑戦してみるのよさを、後輩に伝えたいと思います。



福岡マラソンで優勝したときの宮窪さん



環境と命を守る行動派薬剤師・薬学研究者を養成する「エコファーマ」を担う薬学人育成プログラム」でドイツを訪れた際の永尾さん



2017ミス・ユニバース・ジャパン熊本大会に出場した野口さん

私と同じように、目標とは違う大学に入学した人もいるかもしれませう。あきらめなければ絶対に夢が叶うとは言えませんが、夢を叶えた人はあきらめなかった人。大学は社会に出る前の最後の時間だから、夢ややりたいことがない人もこの時間を使つて探してほしいです。
学長…そうですね。感動と夢を持つということが、何かをやるときには絶対必要だと思います。

野口…大学生活は、社会に出るまでの大事な準備期間です。自分次第で何でもできるし、できる環境もあります。たくさんのお会いや時間を大切に、新たな自分探しに挑戦してもらいたいです。応援しています。
学長…大学の役割は3つ、研究、教育、そして社会貢献です。熊本大学は、研究にかなりの力を入れている大学。生命系だとエイズ研究や発生医学、工学系だと熊大マグネシウムやパルスパワー、人文社会系では永青文庫研究センターなど、熊本でしかやっていない、熊本でしかできない研究をさらに伸ばし、世界へ発信できる研究拠点にしていかなければいけません。熊本大学には、前身である旧制第五高等学校の「剛毅木訥」を受け継いだ教育があります。学生たちにはぜひ、意思が強く飾らない、そんな気持ちで学業や学外活動に励んでもらいたいと思います。

人生の可能性を広げる アントレプレナーシップ

大学発ベンチャーを支援

大きな企業が手を出しにくい、革新的かつ最先端の技術や知識を軸にして興すベンチャー企業。熊本大学では、COC+事業と連携して学生による大学発ベンチャーの起業を積極的に支援しています。大学発ベンチャーの意義やすばらしさを、研究・社会連携担当の松本泰道理事、株式会社リバナスの福田裕士所長、そして、支援を受けて起業した大学院薬学教育部の弘津辰徳さんに話を伺いました。

× 大学



まつもと やすみち
松本泰道理事
研究・社会連携担当理事
副学長

自ら動き、大学を積極的に利用して

熊大生には、起業を考え、社長になろうと思うのは当たり前、くらいの気持ちを持つてほしい。もともと人は、何かやりたいというアントレプレナーシップ（起業家精神）を持っていきます。常にそれを意識していると人生の夢が広がります。

熊本大学では学生による熊本発ベンチャー起業を支援する取り組みを続けていますが、大切なのは、学生が自ら考え動くこと。待ちの姿勢ではなく、起業の役に立ちそうなコト・ヒトを見かけたら「だめな積極性が必要です。うまくいかない時などには、私たちが大学を利用してほしい。また、ベンチャーは日本だけを相手にしてはだめです。数時間飛ばさず世界が広がっています。熊本大学は世界の約250の大学や研究機関とも協定を結んでいます。そういったポテンシャルもぜひ利用してほしいと思います。

※COC+
大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出するとともに、地域が求める人材を養成する教育プログラム

× 企業



ふくだ ゆうじ
福田裕士 所長
株式会社リバナス
自然共生型産業研究所

今こそがチャンス

アメリカの優秀な学生は、スタートアップと呼ばれるベンチャー企業を選ぶ傾向が高いのですが、日本の学生はほぼ大企業志向。これは安定重視の日本人と自分の考えを形にしたいと考えるアメリカの学生の意識の違いです。しかし日本にも新しいことをしたい学生はいて、そんな彼らの近くに成功しているモデルがいることも大事。弊社は、サイエンスをわかりやすく伝えることを強みにして事業展開する事を目指しています。

アメリカの優秀な学生は、スタートアップと呼ばれるベンチャー企業を選ぶ傾向が高いのですが、日本の学生はほぼ大企業志向。これは安定重視の日本人と自分の考えを形にしたいと考えるアメリカの学生の意識の違いです。しかし日本にも新しいことをしたい学生はいて、そんな彼らの近くに成功しているモデルがいることも大事。弊社は、サイエンスをわかりやすく伝えることを強みにして事業展開する事を目指しています。

※株式会社リバナス
15名の理工系大学生と大学院生が集まって設立されたベンチャー企業。科学技術の発展と地域貢献の実現を目指し、全国で創業支援、教育応援、研究応援プロジェクトを推進。

× 学生



ひろつ たつのり
弘津辰徳さん
大学院薬学教育部
博士後期課程(創薬・生命薬科学専攻)3年
株式会社 CyDing (サイディン) 代表

医療系ベンチャーの先駆者を目指す

起業したいと思っても一歩が踏み出せないでいた時に、株式会社リバナスの丸幸弘C EOと出会い、支援していただいで起業できました。ただ、起業は順調でもやはり続けていくことが大変。銀行からも医療系ベンチャーへの融資に前例がないとスムーズにいきませんでした。だからこそ、自分が成功して熊本医療系ベンチャーの先駆者になることが目標です。

資金調達や事業計画作成についての大学の支援はとても助かりました。いろいろな人に出会う機会も作っていたので、先輩方の話を聞くのは勉強になりました。同じベンチャー仲間と切磋琢磨できて、大好きな熊本がベンチャーの中心になれるよう、ベンチャー企業が増えることが理想です。今博士論文の執筆で本当に忙しいのですが、今が一番大変だと思わないようにしています。壁は常にある。もっと大変な時は来るから、これくらいできる、という気持ちを持つようにしています。

※株式会社 CyDing (サイディン) (<http://cyding.jp>)
株式会社リバナスの創業支援によって弘津さんら3人が起業。プロジェクト「シクロデキストリンを基盤分子とした医薬品および機能性食品の創生」が、平成28年7月に開催された「熊本テックブラングランプリ」において最優秀賞を受賞。

熊本大学による ベンチャー 起業支援

次世代ベンチャーの発掘と育成に向けた連携協定

平成28年2月、熊本県、(株)後銀行、熊本大学、(一社)熊本県工業連合会、(株)リバナスによる「熊本県次世代ベンチャー創出支援コンソーシアム」が運営する創業支援プログラムの一環として開催されるコンテスト。学生や企業チームが参加しています。平成28年度は、エントリー22チーム中、5チームをグランプリに選出。うち、3チームが熊大でした。

熊本テックブラングランプリ

学生ベンチャー 「夢プロジェクト」

新規ビジネス構築プロジェクト、技術のベンチャー化を目指した実用化研究プロジェクト

トなど、学生ならではのアイデアに富むベンチャー起業を目指したプロジェクトを募集。採択されたプロジェクトにはビジネスプランのアイデアとステージに応じて5〜50万円程度の資金提供。各種セミナーへの参加、学生ベンチャー国際交流等、学生の「夢」を実現するための支援を行っています。

熊本イノベーションラボ

異分野の学部との交流を目的に、学生から声が上がった交流会。医学部や工学部など普段交流がない学部の学生が月一回集まって研究を発表、懇親会も行っていきます。今後は地元企業の参加の機会もつくり、学生と企業の交流も促進します。

興味をもたれた方は以下へお問い合わせください

連携協定と夢プロジェクト
マーケティング推進部社会連携課
(産学連携チーム担当)
TEL : 096-342-2036
E-mail : sangaku-somu@jimu.kumamoto-u.ac.jp

熊本イノベーションラボ
<https://www.facebook.com/KumamotoInnovationLab/>

株式会社リバナス
熊本大学インキュベーションラボラトリー2階
(くまもと地方産業創生センターベンチャー支援室内)
TEL : 096-342-3288 (内線 215)



教育・学生支援担当理事
副学長
ふるしま みきお
古島 幹雄 理事



体験と講義で学ぶ授業と興味にそって学べるe-ラーニング教材

肥後熊本学は、講義形式の授業のほか、e-ラーニングによる学習の機会も提供されています。講義形式の授業で選択できなかった領域を、自分の興味にあわせて選択し、学ぶことができます。

身近なテーマに「学び」を見出す 新たな学問領域「肥後熊本学」

地域貢献と世界貢献 両極を支える肥後熊本学

平成29年度は、熊本大学が再構築した教養教育のスタートの年と位置付けています。リベラルアーツ科目、現代教養科目、肥後熊本学を核とする、総合大学ならではの、質の高い教養教育を提供するのが一つの特徴です。

その中で、肥後熊本学は、地域を学び、地域を考え、そこから得られた情報を、学生自身で知に変えてゆくことを目的としたもので、新たな学問領域としての肥後熊本学の構築を目指しています。その先駆けとなる平成29年度の講義内容は、非常に中身の濃いものになっています。今後さらに質を高めてゆく過程で熊本の新たしい価値が生まれれば本

学が採択されている文部科学省のCOCC事業（*）が掲げる「知の創造による地域貢献」につながり、さらには、地域という身近な題材での学びを普遍化させ、グローバルな知として変換し、新たな情報としてグローバルに発信してゆくことで、これも本学が採択されている文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業にもつながります。このことで、地域貢献とグローバルリーダーの育成という本学が持つ大きな使命の二つを支えることになり、

「教養」なきリーダーに人はついてこない
学問に触れば、一般的な知識を得ることはできますが、ただ単に「知っている」だけでは、会話や議論を深めること

はできません。本学を卒業し社会に出て行く人には、社会のリーダーとして活躍して欲しいと思っています。しかし、教養の香りのしない、単なる知識の披露だけの人間に、ひとは果して尊敬を持ってついてくるでしょうか。
それでは、教養とは一体何なのでしょう。実は一般社会で使われている教養と本来の教養には乖離があるように思います。欧米では「リベラルアーツ」にははっきりとした定義があります。それは、職業や専門分野に直接役立つものではないという風に理解されています。文学や哲学や自然科学などの学芸に触れて得られた知識を、何かに役立たせる目的のためでなく、自分の中で「知」のレベルまで高め、人間的な幅を持ち、人格を形成するのが教養なのです。
最後に、情報を知に変えるということは得られた知識という名の情報の本質を含蓄ある一言で表現する、または言い切るということです。学生の皆さんは、本学の教養教育を通して物事の本質を見極める力を養って下さい。

*COCC事業
人材育成や就職先の創出など、大学を拠点に地方創生を目指す
文部科学省「知の拠点大学による地方創生推進事業」



肥後熊本学

特集 I

熊本大学の教養教育改革

地域の情報を 普遍性ある 「知」へ高める

肥後熊本学

平成29年度は、熊本大学にとって教養教育改革のスタート年となります。この改革の柱のひとつが、地域を学ぶ「肥後熊本学」です。これは「歴史」「文化」「社会」「自然」「環境」「生命」の6領域において、熊本の身近な事物を見つめ直すことにより、より本質的で普遍的な課題への理解を深めることを目的としています。肥後熊本学を含む教養教育は、真の「知」を涵養するものです。本号では、「肥後熊本学」の6領域から1テーマずつご紹介します。

日本史上 最重要な時代を知る鍵は 熊本にあり

質・量ともに群を抜く
貴重な細川家古文書が「教材」

江戸時代に熊本を治めた大名細川家に伝わる貴重な文化財を所有する公益財団法人永青文庫から、熊本大学は6万点もの古文書を預かっています。それを研究しているのが、永青文庫研究センターです。この講義のキーワードの一つが、やはり永青文庫。担当する稲葉継陽教授は、細川家の古文書は、全国的に見ても質の高さ、量の多さで傑出していると言います。「廃藩置県で県に移管された旧藩の資料は、行政制度が変わるうちに不要となった資料から廃棄されていきました。ところが熊本では、細川家の旧家臣たちが資料を回収する活動を行った。保管してあった蔵が第二次世界大戦の空襲も免れて多くの貴重な古文書が残りました。また、熊本地震で被災した地域住民からの文化財レスキュー活動では、住民コミュニティの代表者である庄屋のもとに蓄積された資料も救出されており、「それらを分析することによって、政策がどこでどう立案され、どう検討・判断されてきたかがあったのか、下(領民)から上(藩)までの流れを知ることができます」。私たちが漠然と持つ、農民たちが身分制度に縛られ一方的な圧政に苦しんでいたイメージは覆される



附属図書館収蔵の永青文庫藩政記録

と稲葉教授。そんな熊本藩の状況は、ほかの地域にも共通していたのではないかと、熊本の歴史資料を読み解くことで江戸時代像の全体が再検討されていきます。これは学界でも非常に注目されています。

九州の歴史から、重要な時代の「なぜ」と「だから」が見えてくる

講義のもうひとつのキーワードが、戦国時代から江戸時代初期までの「中・近世移行期」。鎌倉時代から戦国時代まで続いた内戦が収まっていかなかったら、日本は植民地化されてもおかしくはありませんでした。ところが、それを250年余にわたって続く、内戦も対外戦争もない天下泰平に転換させることができた時期なのです。それを熊本の歴史から読み解く理由には、薩摩、大宰、島原が中世以来の国の境界領域だったこと。そして、実は戦国時代の熊本が、大名たちが敵地で略取した女性や子どもを奴隷として輸出する拠点の一つだったことがあります。「秀吉が九州内の戦いを終わらせることは、国家主権の形成や、日本人の流出を防ぎ新しい対外関係を構築するために不可欠でした。そう考えると、戦国から江戸初期という日本史上もっとも重要な時代を九州から捉えなおすことは、日本史研究全体にとって不可欠です」。



永青文庫研究センター
稲葉 継陽 教授

戦国時代の終わりが日本にとって何を意味したのか、また、世界史にも類例なき江戸時代の長期平和はどう成り立ったのか。「徳川幕府が大名や民を圧力で抑えていたというだけでは説明できません。熊本や九州の歴史を読み解き、それを自分なりに説明できるようになってほしいと稲葉教授。講義を通して、自分が生み育った地域や国の歴史に根差したアイデンティティを育ててほしいと話してくれました。

永青文庫の名前の由来

細川家の菩提寺である水原庵(建仁寺塔頭)現在正伝水原庵の永と、細川藤孝(樂意)の居城(書院)の青にちなむ。

学びを深めるおすすめの一冊

プラタモリ6 松山・道後温泉・沖縄・熊本
NHK「プラタモリ」制作班監修(角川書店)

稲葉先生も出演したプラタモリを書き下ろした本。熊本城や城下などを新たな視点で面白く魅せてくれます。



震災と復興のメモリー@熊本
熊本県立美術館編(熊本県立美術館)

永青文庫所蔵の古文書や絵図等によって、震災に遭いながらも復興を目指した過去の人々の歩みに目を向けた展覧会の図録。熊本地震から1年を経て開催された。



文化 夏目漱石とラファディオ・ハーン

漱石とハーンに見る「今」へのメッセージ

宮崎アニメにも影響を与えた『草枕』

「スタジオジブリの宮崎駿監督は、夏目漱石の『草枕』の大ファンであることを公言しています。『草枕』をテーマとした講義を担当する跡上史郎准教授はこう話し始めました。『草枕』は旧制中学校では教科書の定番でしたが、今は消えました。理由は難しいから。どんな芸術がすばらしいか、そんな話ばかりで先に進まず、つながりがありません。ところが、漱石はわざとそんな作品を書いていたと、跡上准教授。宮崎監督は、つながりを大事にする西洋の物語のバターンから外れ、日本人にしかできないアニメをつくりたいと『千と千尋の神隠し』や『ハウルの動く城』といった挑戦を続けていた時に『草枕』と出会い、そこから『崖の上のポニョ』や『風立ちぬ』が生まれたのです。『崖の上のポニョ』や『風立ちぬ』が生まれたのはそのためです。宮崎アニメと『草枕』に共通する「どこに連れて行かれるかわからない感覚」で、『草枕』を味わってみてはどうかと跡上准教授は言います。

漱石や宮崎監督のように、西洋と異なる考え方で一つの作品を作った人がいること、そして、その価値



学内にある漱石の銅像とハーンのレリーフ

観や考え方が、海外のアーティストなどからも高い評価を得ていることを知ってほしいと跡上准教授。『熊本ゆかりの漱石の、熊本ゆかりの名作『草枕』を肥後熊本で学んだ学生たちから、『草枕』を復活させ、有名にしたいという動きが始まればと考えています」。

ハーンの生涯と思想に 現在性を見る

ラファディオ・ハーンについての講義を行うのは坂元昌樹准教授。取り上げる作品の一つが、1894年、旧制第五高等学校の生徒たちに向けた講演『極東の将来』です。「堅苦しく国家の将来を語っているようですが、実は若者たちへの、これからのどう生きるかというメッセージ。彼は、シンプルで質素な生活に日本の将来がかかっていると語りました。なぜ質素という価値観を唱えたのか、そして、100年以上前の講演が決して過去の古びたメッセージではないことを解きほぐしていきたいと思えます。また講義では、生涯を通してハーンに強い関心を抱いていた萩原朔太郎の作品を中心に、ハーンの日本文化への影響も取り上げます。

ギリシャに生まれさまざまな国を経て日本へとやってきたハーン。彼の生涯を振り返ると、自分と

は異なる他者や価値観との接触と共生というものが鮮やかに見えてきます。漱石も日本と西洋のさまざまな差異について思索を続けた。そういった経験は、文系や理系という境界によって価値が変わるものではないと坂元先生と坂元准教授。さらには、二人の教員が担当するこの講義から「一つのものにいろいろアプローチや捉え方があること。答えは一つではないことを知ってほしいと思います」。坂元、跡上両准教授からのメッセージです。



教育学部 教育学研究科
あしがみ しろう 准教授(右)
文学部 文学科
さかもと まさき 准教授(左)

学びを深めるおすすめの一冊

漱石全集第三巻 草枕・二百十日・野分
夏目漱石著(岩波書店)

熊本を舞台とした作品が入った巻。読む年代によって、感じ方や見え方が変化していく奥深さがあるとか。



Lafcadio Hearn Studies

熊本大学小泉八雲研究会編(熊本大学小泉八雲研究会)

ラファディオ・ハーンの研究が年1回発行している小冊子。「原文で読むと理解が変わるものもある」と坂元先生。



社会 ハンセン病差別とその克服に向けて

なぜ、私たちは差別を克服できないのか

人はこれほど罪深い
熊本で激しかった差別事件

講義を担当する岡田行雄教授からは、耳を塞ぎたくなるようなハンセン病患者差別事件が語られます。昭和27年の「菊池事件」は、ハンセン病患者が正当な取り調べも弁護も受けられず殺人犯とされ、死刑となったもの。昭和28年の「龍田寮事件」は、熊本の黒髪小学校で患者の子どもたちの入学を地域全体が拒否したというもので、映画「あつい壁」にも描かれています。「法律を超えた差別も激しく、男性は断種、女性には子宮や卵巣の摘出なども行われていました」。患者の強制収容施設、菊池恵楓園があったこともあり、熊本では特に激しい差別運動が起こっていた、と岡田教授は話します。

平成13年、熊本地方裁判所は、ハンセン病差別の大きな原因となった「らい予防法」が違憲であったと画期的な判断を下します。国も控訴をしないと決め、当時の内閣や両議院が謝罪を表明。ところがその後の平成16年、熊本の温泉地にあるホテルがハンセン病患者の団体客の宿泊を拒否するという事件が起こり、差別の根深さが浮き彫りとなりました。



ハンセン病裁判を綴った裁判全史

ハンセン病差別は現代の問題を写しだす

講義では、ハンセン病とはどのような病なのか、らい予防法が成立した経緯、そして数々の差別事件を取り上げます。「逃げ出したいと思うほど重いテーマです。しかし、つらく厳しい部分もあるのが学問。菊池恵楓園がある熊本の大学がやらないといけないことです」。

家族まで差別されたハンセン病。「放っておくと顔などが変形するので恐れられたのですが、そもそも遺伝病ではないし、感染力も極めて弱く致死率も極めて低いです」。誤った医学から生まれた悲劇を、全ての学生に学んでほしいと岡田教授。「科学において、新しいことがわかればそれまでの常識は覆される。だから、私たちは科学に対して常に慎重でなければいけないのです。そして法律も、科学の使い方に慎重でなければなりません。ハンセン病差別は、法律がとんでもない科学に基づいて、とんでもないことをやってしまった典型例。本当に罪深いことです」。

さらに、先ほどのホテルの事件では、問題はその後にもありました。ホテル側の謝罪が十分ではないことに元患者が声を上げると、今度は元患者が全国から訴

自然 蕃葱園・伝統野菜・本草学

植物の生き方を知り、自分の生き方を知る

熊本ならではの

人・植物・食の関係を見る

この講義を担当する渡邊高志教授は、熊本大学薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンター長を兼任しています。江戸時代に肥後熊本藩によって開設された薬草園「蕃葱園」の流れを汲む、国立熊本薬学専門学校(薬学部の前身)の薬草園を受け継ぐのが同センター。「講義の二つの柱のうち、一つが蕃葱園の歴史的な植物探訪や夏目漱石を中心とした人物と植物とのかわりを見ること。実は漱石は、蕃葱園から五高の敷地内に移した150余種の薬木薬草について徳び、句を詠んでいます。熊本大学の黒髪キャンパス内にも薬草園があったほか、黒髪に隣接する菜園町にもありました。調べたところ、菜園町の菜園跡には、その当時の名残があり幾つもの植物が今でも残っています。そういった場所を、フィールドワークを通して見ていきます。そして柱のもう一つが、人と食のかかわり。たとえば伝統野菜とは何なのか。実は伝統野菜に日本の在来種はありません。植物の遺伝学的問題や分類学的問題を知った上で伝統野菜とうたわなければならぬと思いますが、暮らしの中に寄り添ってきた植物であることは確かです。そ



サンザシ(左)とモクゲンジ(右)

んな、人と食のかかわりを各地に展開して教える薬草のキャラバンを通して、自分たちの足元を見てもらう。伝統野菜以外にも熊本に特徴のある食べられる植物、機能性がある植物を発掘して熊本の力を発見してもらいたいと考えています」。

「食と植物」の歴史と可能性をもっと知ってほしい

講義の大きなテーマは「食・植物の文化観光」だと渡邊教授。伝統野菜を含む食、そして植物がなぜここにあるのか、遠い歴史から探訪すれば、もっと熊本のことかわかってくる。さらに好きになると言います。「卒業して医師や薬剤師になった人から、もっと薬草をはじめとした植物を勉強しておけばよかったという声がかかります。それが郷土愛の再発見になっているようで、肥後熊本でその入り口を固めてほしいと思います」。また、学生のレポートから、たとえばインフルエンザの薬タミフルがどんな植物からできているか、また、柳からアスピリンができていることなど、「植物の可能性について知らなかった人が多いと感じます。薬を扱うなら原料については知っておくべきであり、また、品質の良い植物を知るには、植物の起源をしつかり知ることが



法学部 法学科 岡田 行雄 教授

誇中傷を受けたのです。おとなしくしているなら味方するが、少し声を上げると袋叩き。これは熊本だけでなく日本全体が抱える問題です」。このような事例は、ネット社会である現在のほうがむしろ顕著です。「ハンセン病差別は見事に今を写しだしています。私たちはこの問題をまったく克服できていないことに気づいてほしい。どうしたら私たちは差別をせずに済むのか。差別による被害をどう克服するか。これを最後に考えてほしいと思います」。

学びを深めるおすすめの一冊

ハンセン病検証会議の記録

内田博文著(明石書店)

平成8年までの約100年に渡り続いたらい予防法により隔離政策について、被害の実態調査を行い、差別の解消を提言した一冊。



ハンセン病絶対隔離政策と日本社会

無らい県運動研究会編(六花出版)

戦前期に在宅患者を療養所に送ることで始まった「無らい県運動」に始まる絶対隔離政策などについて、さまざまな観点から研究しています。



薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンター 渡邊 高志 教授

不可欠。それも肥後熊本で学ぶことができます」。また、薬学・医学部以外の他分野も、ともに学ぶことにも意義があると渡邊教授。「なぜなら、植物の多様性と人間の多様性は共通していて、環境などによって変わる植物の生き方を通して自分の生き方も学ぶことができるからです。学生にはもっと多様性を発揮してほしいし、人の生き方や多様性を見ながら、自分が一番心地よい生き方を知るのもいいのではないのでしょうか」。

学びを深めるおすすめの一冊

日本の食生活全集43 聞き書 熊本の食事

日本の食生活全集熊本編集委員会編(農文協)

大正末から昭和初期の、熊本の暮らしと食事をまとめた一冊。「食文化を知ることには、自分たちの足元を見直すことにつながります」。



高知県有用植物ガイドブック

渡邊 高志監修(高知新聞総合印刷)

高知県の植物を有用性の観点から選別し、354種について詳細に解説したガイドブック。「この熊本県版を作りたいと思っています」。



環境 自然災害

避けられない災害でも人は付き合わなければならぬ

足もとを知ることが災害対策の第一歩

竹内裕希子准教授が担当するテーマは、自然災害です。「地震、津波、台風、高潮、土砂災害、洪水、火山。そのメカニズムについて知るだけでなく、どのような災害対策があるかを考えます」。肥後熊本学としては特に、火山なら阿蘇、土砂災害や洪水に関しては平成24年の九州北部豪雨災害が取り上げられます。「阿蘇だと火山噴火の災害を考えるかもしれませんが、それだけでなく、毎年のように発生する土砂災害を通して、火山がつくった地形や地質の特徴を見ていきます」。

自分たちの足もとを知ることが防災・減災の始まりだと竹内准教授。熊本大学の黒髪キャンパスも、実は白川が運んだ土砂が堆積してきた土地であり、昭和28年の6・26水害では、熊本大学でも学生が亡くなったという記録が残っているそうです。「今は白川の堤防を高くするなどの対策がなされていますが、それでも洪水と無縁とは言えません。自分たちがいる場所が川の堆積物でできたのか、山が崩れてきたのか、あるいは断層によって高低差があるのか、などを知ることが大切です」。そして災害への備え



熊本市がホームページで公開しているさまざまなハザードマップ

は、堤防や砂防ダムのようなハード対策だけではなく、ハザードマップを見る、気象台の情報を確認するなど、「自分で自分の身を守る対策が不可欠」と竹内准教授は話します。

客観的に災害を振り返り次に備えるきっかけに

自分で自分を守る自助、そして共助と公助も授業の最後に取り上げられます。「行政による堤防などのハード対策は、目に見えるため、安心感をもたらします。しかし、その備えが万全でないことが、阪神淡路大震災で明確になり、自助・共助の必要性が重視されるようになりました」。自助、そしてお互いが助け合う共助は、東日本大震災でさらにクローズアップされています。授業では、災害が起きた時だけではなく、日頃から地域の掃除に参加するなどの行動も共助の一部であることなどを考えます。

この授業は平成28年の熊本地震についても、「自分がどういう被害にあったのか客観的に見直す機会」になります。振り返ることは学問では不可欠であり、それによって次の災害に備えるきっかけになると言えます。「肥後熊本学は地域性を学ぶのもです。熊本出身以外の学生にとっては、自分の育った地域

生命 水俣病の社会史…水俣病を知っていますか

水俣を知り、謙虚に問う「自分は正しいのか」

自然のサインに対する不作為が水俣病問題を複雑にした

漁獲の減少、猫の狂死…。水俣病が公式確認された昭和31年以前から、自然界はサインを出していた。講義の運営を担当する一人、牧野厚史教授は、「何が起きているのかサインはあったが活かせるなかった。問題を感じる力と想像する力が欠けていた」と語り、もう一人の慶田勝彦教授も、この講義で教壇に立つ熊本日日新聞社の高峰武論説主幹の言葉を借りて、「不作為がキーワード。予兆はあったのに、やるべきことをやらなかったことが水俣病問題を複雑にした」と言います。講義は、そんな水俣病の長い歴史を理解して、今、なぜ水俣病を考える必要があるのかを考えます。

水俣病の問題は終わっていないという語りはよく耳にしますが、高峰論説主幹は、水俣病は終わりようのない問題だと指摘しています。「そも



本学の文書館(平成28年4月開館)に保管されている、当時発行されていたガリ版刷りの新聞

そも、水俣病の全貌さえ明らかになっていない」と両教授も声を揃えます。

メディアの世界から知る水俣病の「向う側」

とはいえ、肥後熊本学で水俣病を学ぶ目的は、水俣病に関する知識を増やすとか過去を反省すること以上に、「現代社会を読みとくためにも水俣病の向う側にあるものを知ることは必要」だと慶田教授。一つの例としては、今世界はいたらとて分断が進んでいますが、さまざまな分断を生きぬいてきたのが水俣。「分断を経験した場所からの声には、必ずヒントがあるはずです」と話します。

メディアを通し水俣病を追い続けてきた高峰論説主幹が行う講義は、そんな水俣病の「向う側」を知る素材にあふれています。牧野教授は「新聞記事は、その時代の人々がどうものを見てどう考えたかを映し出す。当時の状況を実感的に理解できる授業になるはず」。また、「水俣病も文学、景観、工学技術など文系、理系を問わずさまざまな分野につながります。たとえば、科学の成果を役立てようとしたのに意図せざる結果が起

とほかの地域と比較をする視点を身につけたり、自分が生まれ育ったところを見直すことにもつながります」。

「地域はずっと同じままでありません」と竹内准教授。「人の住み方や技術も変わり、対策も常に変動します。それまでの自分の情報だけにとらわれず、地域の変化にも気づき、災害対策も自分たちで更新できる、そんな柔軟性を養ってほしいと思います」。



大学院先端科学研究部 社会基盤計画分野 竹内 裕希子 准教授

学びを深めるおすすめの一冊

熊本の地域研究 山中進 鈴木康史編著(成文堂)

熊本の自然や文化など、地域の成り立ちなどを、実例を通して紹介する一冊。



地名は災害を警告する 遠藤宏之著(技術評論社)

地名に隠された自然や地域の成り立ちについて記述した本。「災害由来の名称は各地にあり、それを知ることとは防災につながります」。



文学部 総合人間学科 牧野 厚史 教授(右)

文学部 総合人間学科 慶田 勝彦 教授(左)

る。想定外などと言って済まされない事態を防ぐ人間の想像力というものを、水俣を通して学べるのではないのでしょうか。慶田教授も、「資料や現場を見ることで、自分の考え方や世界に対する考え方を見直してみる、そんな力を身につけてほしいと思います」。自分は正しいのか、常に疑ってみる「謙虚さ」を伝えてくれるのが水俣ですと話してくれました。

学びを深めるおすすめの一冊

水俣病事件資料集全二巻1926-1968 水俣病研究会編(葺書房)

公式確認以前から昭和43年までの資料を収録。一次資料収集を原則としており、人々の生の声が伝わってきます。



水俣病の民衆史全六巻 岡本達明著(日本評論社)

本講義の主要参考文献に指定している著作六巻。「これまでの、そしてこれからの水俣病研究および水俣の地域研究の道標ともいえる力作です。是非、手にとって一読してほしいと思います」。



講師を務める 高峰 武 氏 熊本日日新聞社論説主幹

研究室探訪



光をもっと有効に。化学が支える
「光マネジメント」で世界を変える

太陽光の利用効率を上げる 肉眼では見えないナノ繊維

伊原研究室を訪ねると、伊原博隆教授が3枚のプラスチックフィルムの実験の様子を見せてくださいました。小さな太陽光電池に透明のフィルムを貼ると、発電量が低下。ところが薄く青く光る2枚目を貼ると発電量が上がり、黄緑色に光る3枚目ではさらに上昇しました。「透明の方が光を通しそうですが、実はフィルムが光を吸収してしまっんです。私たちが造ったフィルムの中には光るナノ繊維が入っており、良質な光に変える力があるんです。住宅の屋根などに乗せ発電に使われる太陽光電池は、保護のため表面にガラスなどを貼る必要がありますが、それが紫外線をカットし太陽光のロスが生まれます。「太陽光を有

効利用するには、いかにナノ界面をコントロールするかだと伊原教授。部屋の壁も光を吸収してはいますが、「反射光が人間にやさしい可視光になれば、それも有効利用できる。マイクロ粒子やナノ繊維の力を活用した私たちの研究は、トータルすれば、光のマネジメントと言えるでしょう」。

さらに、光マネジメントはサマーマネジメントとも直結すると伊原教授。「夏、私たちは太陽からもうエネルギーの多くを捨てています。家や車の窓ガラスが光を遮断するのではなく、吸収してエネルギーに変換するようになれば、夏のほうがエネルギーをより使える季節になるわけです。捨てている光や熱を効率よく使うという課題を解決すると、私たちの生活はさらに豊かになると伊原教授は話します。

化学好きなら 「誰でもウェルカム」

工学部における化学をベースとしたこの研究を、「真理の探究が、それを応用して役に立つものづくり」という出口と結びつくもの」だと伊原教授。基礎研究の側面と、ものづくりという工学的側面を結びつける化学を「チームプレーでなければ成し得ない」と言います。

そんな伊原研究室は「化学が好きなら誰でもウェルカム」。海外からの学生や研究者も多いグローバルな研究室です。「化学が好きなら私たちが育てる、その自信はありますよ。手とり足とりで指導します(笑)」と伊原教授。「研究」というのはどう化けるかわかりませんが、ただ、やりたいことを実現するには、基礎研究やトレーニングは不可欠。努力する人を私たちはお手伝いします。今回紹介した光マネジメントは伊原研究室の研究のごく一部。化学好きを生かし、世界を変えるものづくりに挑戦したい人に、伊原研究室の扉は大きく開かれています。

密着！伊原研究室

国際化(国際共同研究、外国人受入、海外派遣など)に力を入れている伊原研究室。海外の大学や機関との国際共同研究をベースとする相互訪問、ワークショップなどを行っています！



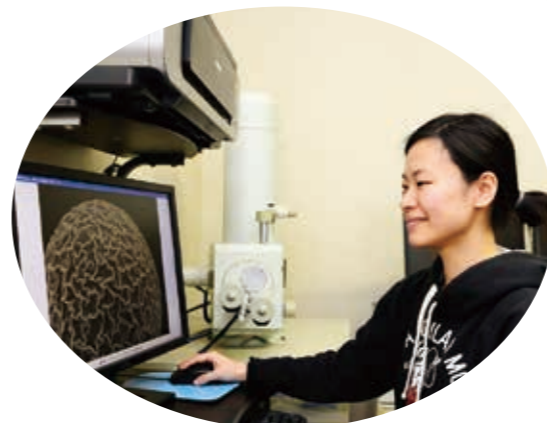
中国科学アカデミー蘭州化学物理研究所の研究グループとの国際共同研究でフランス・ボルドー市を訪問。ワークショップ後のエクスカーションの様子。



ボルドー大学及びフランス国立科学研究センターの研究グループとの国際共同研究でフランス・ボルドー市を訪問。ワークショップ後のエクスカーションの様子。



研究室恒例の忘年会。タックカ大学から国際共同研究で来日中の3名の先生方を交えて。



スキンケア剤や光デバイスへ
応用可能なマイクロ粒子の観察

lab's data

【伊原研究室テーマ】

研究テーマ
分子間の小さな力を巧みに利用して、分子の力を越えた機能材料の開発を目指しています。基礎研究から応用研究まで、多彩な研究を行っている研究室です。

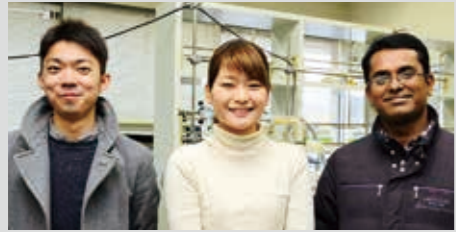


研究分野
超分子化学、ナノ構造化学、光学材料、スキンケア材料、環境材料など

国際交流
世界各国との共同研究に力を入れている研究室。主な共同研究先は、ボルドー大(仏)、ブルックヘブン国立研究所(米)、アルバータ大(カナダ)、中国科学院・蘭州化学物理研究所、インド科学アカデミー、タックカ大学(バングラデシュ)。

メンバー
伊原博隆教授、高藤 誠准教授、桑原 種助教、永岡昭二客員教授、博士研究員、大学院生等あわせて約50人の大研究室。

Interview



大学院自然科学研究科博士研究員

岡崎 豊さん(左)

いったん就職したのち、研究員として戻ってきました。大学に戻った理由は、自分の興味がよりアカデミックにあると感じたこと。これから2年間、フランスのボルドー大学に研究留学することが決まっています。物質生命化学の魅力は、自分のアイデアで世界初をつくることできること。死んだ後にも残るものをつくることできるのはすごいことです。伊原先生からは、どんな結果も建設的に考えプラスにできるということを学びました。話しているとワクワクしてくる、そんな先生です。

大学院自然科学研究科博士前期課程(物質生命化学専攻)2年
村上 晶子さん(中)

ポリマーを重合させ、粒子にして焼成し黒色の顔料をつくる研究をしています。もともと、塗って焼成し被膜材料にする微粒子の研究をしていて、乾きやすくするために配合を変えたところ沈殿する物質が出て、そこから発展しました。いわば失敗から新しいことを発見できるのがこの研究の魅力。就職し研究の道に進みますが、自分にしかない技術を持つ、聞けばなんでも答えてくれると思ってもらえるスペシャリストになるのが夢です。

大学院自然科学研究科博士後期課程(産業創造工学専攻)3年
ファタハ・ヌール・ロベルさん(右)

バングラデシュ出身で、母国では助教として大学に所属。3年間でさらに高いレベルの研究ができ、ドクターコースを修了できることと、この研究室に所属していたバングラデシュの友人から話を聞いてここに留学を決めました。物質生命化学は生命にもかかわる基礎的なことを学び、そこから直接人の生活にも貢献できる分野であることが魅力です。伊原研究室には最新の機器や装置が揃っているだけでなく、みんなフレンドリーで困っていると必ず助けてくれるのがありがたいですね。

今年度で8回目を迎える政策創造研究教育センターの公共政策コンペ。今年度のテーマは「熊本のこれからの未来、私たちが変える」です。同センターの田中尚人准教授は「震災で参加があるかどうかも心配しましたが、熊本の復興につながることを共に考えようと呼びかけました。」

来場者が投票で選んだ「市民賞」に選ばれたのは、工学部情報電気電子工学科4年の村馬賢介さんむらまけんすけが代表を務める「Kumarism」による「熊本県の大学生が学んだことを実践！ 熊本県の高校生のための未来の授業」。高校生に大学生が直接授業を行い進路決定に役立ててもらおうことを目的とした活動です。メンバーが、近くに大学がない地域の高校生は進路に関する情報を得づらいと聞いて発案しました。審査員からは「すぐに実践できる」「教員にとっても役立つ」等の評価。「市民の方々に活動を知ってもらいたいので、受賞はうれしい」とチームメンバー。今後はこの活動をさらに広げていくと話してくれました。

地域課題を解決する提案に7チームが参加

平成28年度熊本大学
政創研公共政策コンペ開催



熊本を元気にしたい！意欲あふれる提案が発表されました。

防災×テクノロジー

(九州大学)
災害ボランティアを効果的にするためにテクノロジーを活用した災害対策の仕組みを提案



Noroshi西原

(会社員)
One flower for Nishihara
～花で西原村を復興させよう～



熊本復興フォトブック

(熊本大学)
留学生による熊本復興フォトブックを作成し、熊本をPRする！



円山研究室4年生

(熊本大学)
益城町仮設住宅団地における駐車場環境の改善



ありがとうプロジェクト

(熊本市役所)
お世話になった方々に感謝の気持ちを伝えるため、繋がるありがとうの輪を提案する



Kumamoto Earthquake Experience Project

(KEEP) (熊本大学)
熊本地震の経験を活かすことを提案した留学生のみのチーム



レポート 熊大と熊本地震

自然災害に負けない 地域づくりを支援

阿蘇自然災害
ミチゲーションプロジェクト

平成28年6月、これまでに培った熊本大学の知を熊本の復興に活かすという目的で発足した「熊本復興支援プロジェクト」。この中で、火山地域における自然災害の発生メカニズムの解明や、地域住民への防災・減災教育などを目標に活動するのが「阿蘇自然災害ミチゲーションプロジェクト」です。

学術的調査を、 わかりやすく 地域に還元

火山が作り出した見事な景観と伝統文化を育んできた阿蘇。観光や学術的な面でも熊本の宝ですが、同時に、火山性地質特有の自然災害と常に隣り合わせの地域でもあります。

阿蘇自然災害ミチゲーションプロジェクトの活動内容は大きく二つ。一つは熊本地震及び、熊本地震に起因して起こりうる土砂災害などの自然災害について学術的に調査し報告すること。もう一つが、



まつだ ひろき
松田博貴 教授
大学院先端科学研究部
基礎科学部門地球環境科学分野

それを地域に還元し、教育も含め、今後の防災・減災につなげることを目指す。「8月くらいまで山間地などの調査を行いました。その結果を学術的に報告することに伴って実施したのが地域住民のみなさんへの説明です。講演会や説明会は小さな規模で、村単位、集落単位、さらには、うちの裏山は大丈夫か、という規模で対応しました」。こう語るのは、プロジェクトリーダーの松田博貴教授です。「ここがひび割れているから土石流の発生が予測される、という研究だけで終わるのではなく、その結果をたとえば市町村の指定避難所の見直しに役立ててもらおう。また、同じ熊本復興支援プロジェクトの震災復興デザインプロジェクトで活用してもらおうなど、連携し、無駄なく安心安全な構図をつくるのが目標です。」

20年をはかると予測される熊本の復興。それをサポートできるのは、熊本大学という、地域に根差した大学にしかないことだと思います。

記憶と教訓を、 後世に生かす教育も

9月以降は、南阿蘇村立南阿蘇中学校と連携し、学校教育システムへの減災教育プログラム導入も支援しています。避難所運営などをゲーム形式で学び、実習して地域で発表します。今後地域のリーダーになつてもらう子どもたちが、災害が起こりそうな時、受け身ではなく自分で考えて動けるようになることが目標です。子どもたちだけでなく、地域住民のみなさんにも防災・減災に関する知識と経験を積んでもらうプログラムを、地域と連携しつつ進めることもプロジェクトの大きな柱となっています。また阿蘇だけでなく、防災は誰にとっても不可欠。松田教授は「自然災害はいつどこで起こるか分からないことを意識しておくことです。また若い人は、情報収集に関しては私などよりずっと速者。情報をうまく活用することが自分の身を守る鉄則になります」と話します。

震災遺構やミュージアムなど、震災の記憶や教訓をどう保存し後世に生かすかも課題となっています。「ただ保存するだけなら、いつか朽ち果てます。たとえば小中学校が定期的に被災体験実習をできるような教育、研修施設も必要です」と松田教授。自然災害に柔軟に対応できる地域づくりを地域とともに成し遂げることを目指し、プロジェクトは続いていきます。



地表(地割れ)と地表水および地下水状況の調査

阿蘇山系から有明海に流れる河川の流域や熊本の豊かな地下水を育み、かつその恵みを受ける地域での水の循環システムと水質に対し熊本地震が与えた影響を明らかにします。さらに、将来に向けた健全な水循環の維持と地下水資源を保全するためのグラウンドデザインを創出しています。

**熊本
水環境保全
プロジェクト**



地下水の水質を調べる湧水サンプリングの様子



熊本城復興シンポジウムの様子

**熊本城等
被災文化財の
復旧・活用支援
プロジェクト**

熊本城をはじめとする被災文化財や歴史的建造物について、熊本県と熊本市などの関係市町村との連携を密に図り被災文化財などの復旧・活用を行っています。

本学の知的資源を有効に活用するために、くまもと地方産業創生センターを中心としてCOC+参加大学、自治体や経済界等と連携しながら、復旧・復興を支援し、ベンチャー等新産業の創出により、震災前よりも活性化した熊本の創生に取り組んでいます。

**産業復興
プロジェクト**



くまもと産業復興支援プロジェクトマッチングイベントの様子

地域住民が安心して暮らせる熊本を取り戻すため、先端医療による地域医療支援を行っています。

**地域医療支援
プロジェクト**



新生児急変に対応する新生児蘇生普及事業公認講習会

**復興ボランティア
活動支援
プロジェクト**

災害復興の各ステージに応じ、学生ボランティアの協働や大学の知的資源、専門性を活かした地域のコミュニティ支援を実施しています。



熊本大学黒髪避難所での体操

復興の意気や溢るる
Full of Kumamoto University Spirit
熊本大学

熊本地震からまもなく1年。熊本大学は、「熊本復興支援プロジェクト」を立ち上げ、7つの復興プロジェクトチームと、これらのプロジェクトを最新のセンシング・モニタリング技術や様々なデータ解析法を用いて支援する「プロジェクト技術支援ユニット」を構成し、様々な取り組みを続けてきました。「特集II」レポート 熊大と熊本地震でも取り上げたそれぞれの活動について、その成果を振り返ります。

写真で振り返る
**熊本復興支援
プロジェクト**
進む。

**震災復興
デザイン
プロジェクト**

被災地での都市計画やまちづくりは、短期間に、行政と住民の間で地域の将来像が共有されることが大切です。本学は、被災地にサテライトラボなどを設け、復興の現場で専門家が住民と対話しながら行政と住民の懸け橋となり、地域の将来像を描く支援を行っています。



サテライトラボ「ましきラボ」民間企業と連携して、地域のみなさんと楽しむイベントを開催



仮設住宅を1軒ずつ尋ねて要望や課題の聞き取り調査を実施

**阿蘇自然災害
ミチゲーション
プロジェクト**

阿蘇地域の火山性地質に起因する自然災害の発生メカニズムの解明と、地域住民への防災・減災教育などにより適切な対策を行うことを目標に活動しています。将来にわたり阿蘇の美しい風景を地域産業・観光資源として享受できる、自然災害に柔軟に対応した社会づくりを支援しています。



南阿蘇村での予防的避難の説明会



南阿蘇村立野での土砂災害調査



熊本市内散策では水前寺成趣園を見学



すぐに打ち解け盛り上がり、あちらこちらで記念撮影する姿も



日本のさまざまな文化や環境についても学びます



スプリングプログラムに参加した外国人学生 77 名が、高校生 56 名、熊大生 12 名と交流を深めた「留学生と Meet & Greet」

サポートした日本人学生の声

スプリングプログラムには、多くの熊大生が来熊中の生活や日本文化体験をサポート。中でも県内の高校生が多く参加した、英語コースの「留学生と Meet & Greet」では、主に熊本大学国際交流サークルC3 (Cross Cultural Communication) のメンバーが、高校生と留学生の交流を支援しました。

〈学年はプログラム当時のものです〉



C3 部長

ふくだ ひかる
福田 洸さん 法学部 法学科 2 年

今回のプログラムでは、1対1に近い形で留学生と高校生の交流をサポートしました。少し促してあげると、すぐにみんな仲良くなってきて、うれしかったですね。熊本にいながらでも、留学生と交流できれば広い視野がもてるようになると思います。



C3 部長

つぎ ななこ
辻 菜々子さん 文学部 文学科 2 年

今回はコミュニケーションのサポーターとして参加しました。言葉が通じた時の感動した様子や、留学生の話に対する高校生の新鮮な反応を見ると、自分も感激しました。高校生のみなさんに、コミュニケーションできる喜びを感じてもらえたらうれしいです。



C3

しき なおゆき
志賀 直行さん 工学部 機械システム工学科 4 年

現在4年生で4月からの就職が決まっているのですが、英語力を錆びつかせない目的もあり、サポーターとして参加しました。支援した高校生や留学生が、全員十分に意思疎通できているわけではありませんが、それでも通じ合う喜びを体験してもらえたのではないかと思います。

その他、書道部の部員のみなさんにも協力していただきました。



書道体験では、好きな言葉を筆で書きました



外国人学生は、英語圏からばかりではありません。英語はお互いに外国語。多少間違っても通じ合えます

熊本大学グローバル教育カレッジでは、海外協定校の学生が短期滞在し、日本について学ぶ「サマープログラム」と「スプリングプログラム」を実施しており、講義などを英語で行う「英語コース」と日本語で行う「日本語コース」の2つのコースに分けて提供しています。

平成28年度は、サマープログラムが熊本地震の影響で中止となり、スプリングプログラムでは募集人数を倍にして実施。今回ご紹介する英語コースでは、熊本地震とその復興、熊本の水資源や阿蘇の歴史と地理、水俣病などに加え、和菓子や書道、J-POPなどの日本文化について講義や体験を通じて学びました。



実地見学旅行で訪れた水俣病情報センターで水俣病について学びました

スプリングプログラムの概要

英語コース		日本語コース	
期 間	2月14~2月23日	期 間	2月28日~3月9日
参加国数	12カ国	参加国数	3カ国
参加人数	77名	参加人数	22名

スプリングプログラム参加者の声

ファビアン・シャンクさん

ウィーン大学 (オーストリア)
熊本はとても快適でとても素敵な場所。熊本大学の学食の食べ物もおいしかった！今日のイベントでは、最初は高校生たちが大人しいなと思いましたが、ドイツに留学したいという女子高生がいて、いろいろ質問してくれてうれしかったです。



ビバナ・アリさん

ボカラ大学 (ネパール)



今回の熊本滞在は本当にエキサイティング！今までの人生の中で最高の経験です。同じアジアの国でもいろいろ違うと知ることができたのは、とても素晴らしいこと。高校生もとってもキュートですね。熊本大学への長期留学を考えたいです。

REPORT COCの修了証書授与式が行われました

本学では、平成26年の文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」に採択され、市民、企業、行政などと協力し、地域課題の解決に向けて主体的に学び、行動する人材育成を進めてきました。3月10日(金)、熊本大学COCコース初の修了者に、修了証が授与されました。今回修了したのは、江村和大人(法学部法学科1年)、緒方李華さん(法学部法学科1年)、川俣亜佑美さん(教育学部地域共生社会課程2年)、野口真未さん(法学部法学科2年)の4名です。授与式では「地域課題解決プログラム修了証」がそれぞれに授与された後、学んだことをどのように活用していきたいか、1人ひとり発表しました。江村さんは

「フィールドワークの中でコミュニケーションも身についた。今後、地域を盛り上げる役割を担いたい」と述べ、緒方さんは「もっと地域を知りたい」と、充実したカリキュラムを振り返っていました。



REPORT 「埋蔵文化財調査センター速報展示2016」展示説明会を開催しました

現在、埋蔵文化財調査センターでは、大学構内の遺跡の発掘成果を公表する速報展示を開催しています。展示では明治・大正期の赤煉瓦建造物に関する遺物や、休館中の五高記念館の資料の一部を見ることができます。

平成28年11月10日(木)と12月6日(火)に開催した展示説明会には学内外から18名が参加し、「煉瓦からわかることがこんなにあるのかと驚きました」などの声が寄せられました。速報展示は平成29年4月28日(金)まで開催しております。また、平成29年度の春季には、これまでの発掘調査で明らかになったキャンパスの歴史について、現地を歩きながら追体験する「地下と地上の文化財散歩」のイベントを開催する予定です。



REPORT 熊本城マラソン2017でランナーの救護活動を行いました

2月19日(日)に行われた「熊本城マラソン2017」で、医学部附属病院循環器内科の小島淳医師(心不全先進医療共同研究講座特任准教授)をはじめとする医師、看護師、事務、医学部学生総勢20名がランナーの救護活動を行いました。

今年で6回目を数えた熊本城マラソンですが、毎年熊本病院として救護所を2カ所(南熊本と川尻)設営しています。救護所以外にも、メディカルランナーとして熊本病院から12名の医師、看護師、技師がスタートからゴール地点までの42.195kmを走りながらランナーを見守りました。

今年は曇一つない快晴であり、風もほとんどなく、午前7時の気温は0度でしたが、その後徐々に上昇し最高気温が13度まで達したた

め、多くのランナーはかなり暑く感じたかもしれません。救護を行ったメンバーもかなり日焼けをしました。本大会中のランナーに関する救急搬送は計9件で、搬送内容は例年に比べ低体温は少なかったものの、脱水や膝痛などが散見されましたが、今年も心停止といった重篤な事案は認めず、無事大会も終了いたしました。



REPORT 就活キックオフイベント「就活スタートセミナー」を開催しました

就職活動の解禁日である3月1日(水)、本学キャリア支援課主催で、熊大独自の就活イベント「就活スタートセミナー」を開催し、207名が参加しました。トヨタ自動車(株)や(株)NTTドコモ、(株)三菱東京UFJ銀行など優良企業6社の人事担当者等を招き、パネルディスカッションや企業研究の機会を提供することで、学生が今後の就職活動に対する指針を持つことを目的としています。パネルディスカッションでは、参加学生の就活に関する疑問や不安に対して多くの助言があり、学生からは「就職活動に向けて意欲が高まった」「現在の採用動向が理解できた」といった感想が寄せられました。

なお、3月2日(木)から23日(木)まで、158社・21団体による「学内企業・公務員説明会」を開催し、熊大生の就職活動を支援します。



満席の会場で行われたパネルディスカッション

REPORT 第11回学生国際会議(ICAST 2016 Kumamoto)を開催しました

大学院自然科学研究科主催「第11回学生国際会議」(ICAST: International Student Conference on Advanced Science and Technology)を熊本大学で開催しました。

ICASTは学生により運営される国際会議で、英語による研究発表や討論により学生の実践力及び英語運用能力を強化し、海外からの学生との交流により国際感覚を養うことを目的としています。平成20年より海外交流協定校での開催も含め毎年開催され、第11回目は本学での開催となりました。今回は、熊本大学からの参加者約130名に加え、熊本市内の高校から約20名、海外交流協定校(インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、中国、モンゴル、ベトナム、メキシコなど)から約60名の学生を迎え、12月8日(木)、9日(金)の2日間の日程で、口頭発表101件、ポスター発表58件を英語で行いました。また、ICAST学生運営委員会を組織し、オープニングセッションを含む各セッションの司会進行、交流パーティーの企画及び実行等が学生により執り行われ、有意義な国際会議となりました。10日(土)に実施したフィールドトリップには約40名が参加し、交流を深めました。

バレンシア大学との間で学生交流と研究交流を促進するための大学間学生交流協定および「熊本大学=バレンシア大学・国際教育研究ラボ」に関する合意がされ、1月19日(木)に、バレンシア大学で調印式が執り行われました。

REPORT 1/19 バレンシア大学(スペイン)と大学間学生交流協定等を締結

熊本大学からは高島和希国際交流担当副学長、楡山隆国際先端科学技術研究機構(IROAST)機構長をはじめとする6名の関係者が参加しました。調印式の後、エステバン・モルシージョ学長の表敬訪問、高島副学長による熊本大学の紹介も行われました。またイベントの一環として、法学の特別講演(大学院法曹養成研究科河野憲一郎准教授)と化学のワークショップ(大学院先端科学研究部高藤

誠准教授ほか)も開催され、今後に向けて両大学の交流をさらに深めました。バレンシア大学は、1499年に設立されたスペインで最も古い大学の一つです。基礎科学、保健科学、工学、人文科学、教育科学、社会学、経済学、法学の幅広い分野の教育を行うとともに、交換留学を積極的に推し進め、多くの学生を受け入れています。



化学のワークショップを終えて

REPORT 体育会ダイビング部が「安全なダイビングの新知识」講演会を開催しました

2月18日(土)、体育会ダイビング部は、株式会社タバタ(TUSA)元宣伝・広報部の今村昭彦氏をお招きし、「安全なダイビングの新知识」と題した講演会を開催しました。

今村氏はダイブコンピューターの開発に携わる中で、様々な減圧症の症例を研究されており、全国で減圧症予防法の啓蒙活動にも励まれています。今回は、九州各地のダイビングショップやサークルにも声をかけ、遠方から多数のご参加をいただきました。講演では、人体が窒素を吸排出する仕組みや、様々な減圧症の症状など、減圧症に関する基礎知識を学習しました。さらに、ダイブコンピューターの仕組みや、実際に減圧症にかかった人の潜水軌跡についての説明を聞くことができました。とくに、深い深度を短時間潜るよりも、浅い深度を長時間潜る方が減圧症にかかるリス

クが大きいことを、はじめて知りました。ダイビング部では、今後も減圧症についての知識を深め、安全潜水に取り組んでいきます。



今村昭彦氏「安全なダイビングの新知识」講演会の様子



参加者による集合写真

REPORT 教育学部附属特別支援学校「ショップ&カフェSUZUKAKE」をオープンしました

本学教育学部附属特別支援学校は、2月2日(木)、9日(木)、16日(木)、同校内の生活訓練棟「すずかけの家」で、高等部生徒による店舗「ショップ&カフェSUZUKAKE」をオープンしました。地域の方などが多く訪れ、コーヒーや手作りのマフィンを楽しんでいました。

近年、就労にあたって、コミュニケーション力が重視される傾向を踏まえ、同店での接客サービスを通して、障がいのある生徒のコミュニケーション力向上をねらいとしてい

ます。文部科学省の委託事業「キャリア教育・就労支援等の充実事業」の一環で、校内の店舗型としては、県内特別支援学校で初めての取組となります。

同店では、生徒が製作したコーヒーカップやコースターなどの販売も併せて行っており、来訪者からも好評でした。

4月からも定期的にオープンされる予定です(詳細は、本校HPに掲載します)。



熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.37 (平成28年11月1日~平成29年1月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約12億640万円（平成29年1月31日現在）のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組ませていただきました。また、平成28年の熊本地震復興事業基金へのお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生へ対する修学支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成28年11月1日から平成29年1月31日までの間に入金を確認させていただきました個人228名、18法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を含め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局（電話：096-342-2029）までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者の皆様

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※ () 内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

＜熊本大学基金＞

Table listing donors and amounts for Kumamoto University Foundation. Includes names like 理学部同窓会, 西田 治義, 堤化学株式会社, etc.

＜熊本地震復興事業基金＞

Table listing donors and amounts for Kumamoto Earthquake Recovery Project. Includes names like アッツィィ合同会社, 桑野 幸徳, 伊地知 紀子, etc.

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者の皆様

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※ [] 内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

＜熊本大学基金＞

Table listing names of donors for Kumamoto University Foundation. Includes names like 赤池 孝章, 芥川 卓也, 朝日 慈恵, etc.

＜熊本地震復興事業基金＞

Table listing names of donors for Kumamoto Earthquake Recovery Project. Includes names like 生駒 明, 江原 敬一, 太田 充, etc.

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人113名、2法人・団体等

「第4回熊本大学九州連合同窓会」を開催します

第4回となる「熊本大学九州連合同窓会」を次により開催します。

今回は宮崎市市内での開催で、総会、講演会、交流会を行う予定です。九州地区にご在住の皆様、是非奮ってご参加ください。

【開催日時】平成29年6月17日(土) 14:00~18:00予定

【開催場所】MRT Micc(エムアールティ・ミック) 2階ダイヤモンドホール 宮崎市橘通西4-6-3

【参加対象者】

熊本大学同窓生

【申し込み方法】

次の事項をご記入の上、FAXまたはメールでお申し込みください。

①ご氏名 ②ご住所 ③電話番号 ④卒業学部 ⑤卒業年 ⑥FAX番号 ⑦交流会参加の有無

※詳細は熊本大学ホームページをご参照ください。

【参加費】

7,000円(交流会参加者のみ)

【問い合わせ先】

熊本大学マーケティング推進部社会連携課 基金・同窓会事業室

Tel:096-342-2029

Fax:096-342-3239

E-mail:kik-doso@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【URL】http://www.kumamoto-u.ac.jp/sotsugyousei/dousoukai/kyusyurengo/20170617

【お詫びと訂正】

熊本通信63号 特集IIの一部に誤りがありました。右記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

【誤】



【正】



INFO

熊本地震シンポジウム2017を開催します

来る平成29年4月22日(土)・23日(日)、くまもと県民交流館パレアにて熊本地震シンポジウム2017を開催いたします。今回のシンポジウムでは「熊本地震から学んだこと、伝えたいこと」をテーマとし、医療関係者、市民、県民の皆様が防災に対する備えの重要性、意義を考える場にしたいと考えております。

とで、災害医療への貢献、今後の熊本の復興へ大いに寄与する会になることと思いますので、多くの方の御参加をお待ち申し上げます。

【開催日時・場所】

平成29年4月22日(土)・23日(日)

くまもと県民交流館パレア

【対象者】

全国の医師、技師、看護師、行政職員等

熊本県民・市民

【申込方法】

当日受付のみ

※市民公開講座については事前申込有

【参加費】

医療関係者：有料 一般の方：無料

【問い合わせ先】

学会サポートセンター熊本(株式会社コンベンションサポート九州)

〒860-0811 熊本市中央区本荘1-1-1 熊本大学

医学部附属病院内

TEL: 096-373-9188

FAX: 096-363-0867

E-mail:

keep2017@higo.co.jp

【URL】

http://keep2017.umin.jp



REPORT 平成28年度の学生表彰を行いました

平成28年度の学生表彰を行いました。平成14年度から続くこの表彰制度では、学術研究や課外活動において優秀な成績を修めた、ま

たは顕著な活動が認められた学生や学生団体を表彰しています。平成28年度は6団体及び個人28名に表彰状を授与しました。

学生表彰者(学業成績優秀者除く)

Table listing group award winners (団体) such as Diving, Judo, Archery, and various student organizations, along with their achievements.

個人

Table listing individual award winners (個人) from various departments and schools, detailing their names, departments, and achievements.

Table listing circle award winners (サークル名) including names of student organizations and their representatives.

知の至宝



駅頭に新入生を出迎え 大正14(1925)年頃 (五高記念館所蔵)

五高には遠隔地から入学した生徒を対象に習学寮が設けられた。当初は学年に関係なく入寮できたが、生徒数の増加に伴い上級生は近隣の下宿に移り、新入生が概ね一年間入寮するようになった。寮は建物ごとに、寮生の選挙で選ばれた上級生の惣代や委員を中心にまとめ、新入生の指導や世話をするという伝統が生まれた。

写真は、池田駅(現在の熊本駅)で新入生を迎える委員たちの姿で、入学式を目前にした頃の恒例行事であった。

無事合格を果たし、入学のため来熊する新入生は「チッキ」と呼ばれる鉄道手荷物にした布団や衣類、書籍などと共に駅に降り立つ。寮の委員たちはリヤカーや大八車を用意し、新入生の荷物を寮まで運んで行った。

習学寮では「寮生誓詞」のもと、自治の伝統が引き継がれていたが、まずは自らを治めることが基本とされ、慣れない掃除や洗濯も待ち構えていた。しかし、寝食を共にしながら勉学やスポーツに励み、友情を育む日々は、五高生の誰もが「人生で最も輝いていた」と口にし、その後の各々の人生を豊かに彩るものとなった。

文 藤本 秀子(五高記念館)

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。